



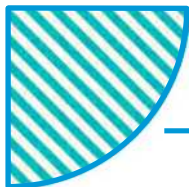
自治・文化・経済部会資料

施策4-2-2 地域を支える産業の育成・市内事業者 等の新分野への進出支援

経済労働局
令和8年6月

資料をご覧ください上での注意事項

掲載している数値等は、6月4日（令和8年度川崎市政策評価審査委員会第3部会の開催日）時点のものであり、今後、修正・変更になる可能性があります。



施策の概要

概要 背景 取組 成果 まとめ

基本政策（1層）

活力と魅力あふれる力強い都市づくり

政策（2層）

新たな産業の創出と革新的な技術による生活利便性の向上

施策（3層）

地域を支える産業の育成・市内事業者等の新分野への進出支援

直接目標

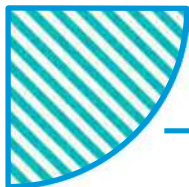
成長分野や地域課題解決に寄与する市内事業者等の新分野への進出を促進する

主な事務事業

ウェルフェアイノベーション推進事業

ソーシャルビジネス振興事業

クリエイティブ産業活用促進事業



実施計画に位置付けた成果指標

概要

背景

取組

成果

まとめ

成果指標①

福祉製品等開発・改良プロジェクト累計件数

算出方法

各年度におけるウェルテックにおいて稼働中のプロジェクトの累計件数

指標の考え方

ウェルテックは、市内中小企業等を中心に、福祉製品・サービスの開発・改良を支援する施設であることから、稼働中のプロジェクト件数を指標とすることで、市内福祉産業振興の取組の成果を測ることができる。

指標の目標値

第3期策定時
—
(R3中頃から事業開始)
※第3期実施計画から新たに設定

第1期目標
—

第2期目標
—

第3期目標
累計16件以上(R7)

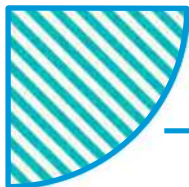
目標値の考え方

ウェルテックにおける製品の安全性・性能等に関する1次評価、高齢者・障害者施設での利用者が実際に製品等を使用する2次評価、科学的知見に基づく技術的助言という流れを、年間を通じて実施することができる最大の件数を目標値とする。

【第3期実施計画策定時】

※「ウェルフェアイノベーションフォーラムでのプロジェクト稼働件数」から指標を変更





実施計画に位置付けた成果指標

概要

背景

取組

成果

まとめ

成果指標②

福祉製品・サービスの市場化累計件数

算 出 方 法	ウェルテックでの支援や評価を通じて、改良や新規開発により市場化（販売開始）した製品・サービスの累計件数			
指 標 の 考 え 方	ウェルテックでの支援を通じて、福祉製品・サービスを開発・改良し、販売開始まで至った件数を指標として設定することで、市内福祉産業振興の取組の成果を測ることができる。			
指 標 の 目 標 値	第3期策定時 — (R3中頃から事業開始) ※第3期実施計画から新たに設定	第1期目標 —	第2期目標 —	第3期目標 累計8件以上(R7)
目 標 値 の 考 え 方	ウェルテックで支援したプロジェクトのうち、50%以上を販売開始まで繋げることをめざし、その件数を目標値と設定する。			



実施計画に位置付けた成果指標

概要

背景

取組

成果

まとめ

成果指標③

コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの年間起業件数

算 出 方 法	市の支援を通じて起業に至った件数			
指 標 の 考 え 方	コミュニティビジネス等の起業・創業についての支援を行っており、起業・創業の増が、市内でのコミュニティビジネス等の振興度合いを測定する客観的で適切な指標であることから、これを設定することで取組の成果を測ることができる。			
指 標 の 目 標 値	第1期策定時 4件（H26）	第1期目標 5件以上（H29）	第2期目標 6件以上（R3）	第3期目標 7件以上（R7）
目 標 値 の 考 え 方	起業に関する相談窓口設置やセミナー開催に加えて、既存事業者の地域での活動やネットワークづくりの支援等により、地域社会でのコミュニティビジネスの浸透を図ることによって、起業・創業希望者を増やし、着実に、段階的に起業者を生み出すことを目標とする。			

地域を支える産業の育成等に取り組む背景

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 福祉製品・サービスの開発には、介護支援者と利用者双方のニーズ把握とともに、製品開発等を担う中小・ベンチャー企業への技術的助言等による伴走支援など、超高齢化社会への対応を見据え、優れた福祉製品等の創出・認証を行うウェルフェアイノベーションの推進を図っていく必要がある。
- また、高齢者支援に加え、子育て支援、障害者支援に関する課題や教育に関する課題、地域活性化に関する課題、気候変動や資源エネルギーに関する課題など、複雑化していく社会課題に対応していくため、ビジネスの手法で持続的に課題解決を図る「コミュニティビジネス・ソーシャルビジネス」の振興が必要である。

- 令和3年8月に開設した「Kawasaki Welfare Technology Lab(通称:ウェルテック)」を核として、企画・開発から販路開拓までの一貫した支援や、総合リハビリテーション推進センター等との連携による、福祉関係者と企業との勉強会等を実施
- 平成31年3月に開設した起業家支援拠点「Kawasaki-NEDO Innovation Center (K-NIC)」を核として、コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスにおける起業及び経営安定化に向けた支援や、起業仲間との交流促進を図る場の提供等を実施



▲ Kawasaki Welfare Technology Lab
(通称:ウェルテック)



▲ 起業家支援拠点
Kawasaki-NEDO Innovation Center(K-NIC)

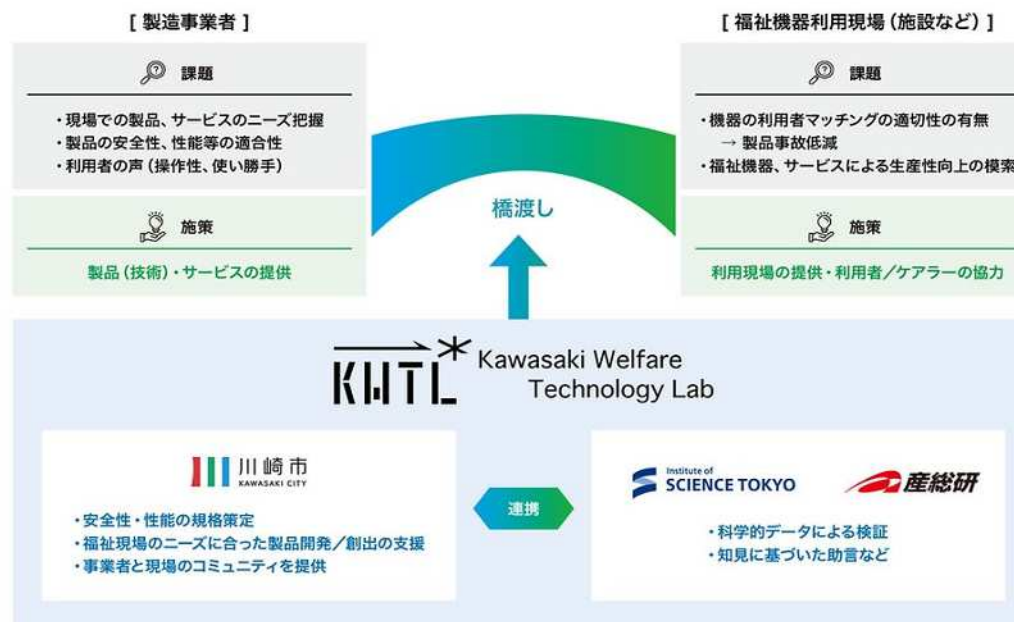
(1) ウェルフェア・イノベーション推進事業

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 平成26年度から、産業と福祉の融合で新たな活力と社会的価値を創造するウェルフェアイノベーションの取組を推進している。
- 令和3年8月に、川崎市複合福祉センター「ふくふく」1階に、福祉施設を想定した「模擬環境ラボ」を備えた福祉製品・サービスの開発支援施設「Kawasaki Welfare Technology Lab カワサキ ウェルフェア テクノロジー ラボ」(ウェルテック)を開設。
- 川崎市・東京科学大学・産業技術総合研究所が共同運営し、開発事業者が福祉現場のニーズを捉えられるよう、福祉現場との橋渡しを行う等の伴走支援を実施している。



▲ Kawasaki Welfare Technology Lab
(ウェルテック)



▲ ウェルテックが目指すもの

(1) ウェルフェア・イノベーション推進事業

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 「Kawasaki Welfare Technology Lab(ウェルテック)」において、開発企業等の相談対応、伴走支援、科学的知見に基づく技術的助言等による開発支援を行うとともに、総合リハビリテーション推進センターと連携したニーズの把握や製品の企画支援を実施。
- かわさき基準(KIS)認証制度による製品の認証及び普及促進につなげるなど、製品の企画から上市、普及・活用促進までの一気通貫の支援を実施。

【開発から上市後の普及促進までの各段階の支援の流れ】



【取組・支援の具体的内容】

- 課題を持つ当事者(高齢者、障害児者)や支援者、専門職との共創による製品等の開発を支援
- 介護福祉現場と製品開発企業との意見交換や、交流の場として、ウェルテックが入居する複合福祉センター内にある総合リハビリテーション推進センターとの連携を活かした勉強会の実施によるニーズ把握の機会の提供
- 東京科学大学・産業技術総合研究所との連携による支援
 - ①福祉現場の当事者や支援者、専門職の声を聞く場への円滑な接続
 - ②仮説検証及び実証の場の提供
 - ③東京科学大学及び産業技術総合研究所による福祉機器等の機能評価や科学的助言、技術的助言等
→支援機関や関連事業のハブとなり、社会実装に繋がる開発を促進
- ウェルテックを軸にした支援の線上に、本市独自の基準により優れた福祉製品を認証する『かわさき基準(KIS)』認証事業を位置づけ、上市後の普及促進までを支援

成果指標①の達成状況(目標達成)

概要 背景 取組 成果 まとめ

福祉製品等開発・改良プロジェクト累計件数

- 令和4年度 of 取組開始以降、目標値を大幅に上回って達成。

	R4	R5	R6	R7
目標	4件	8件	12件	16件
実績	6件	12件	18件	25件

【支援事例】製品コンセプトから、介護現場での実証、性能評価までを支援している例

株式会社キルト工芸「姿勢保持サポート テーブル・椅子(高齢者の立つ・座るを補助)」



●製品概要

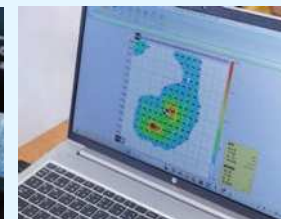
- ・テーブルの天板周りに配置した手すりが、体への負荷をやわらげながら「立つ・座る」をさりげなくサポート。
- ・椅子はテーブル近くに寄せられる半肘タイプ。
- ・食事時の姿勢保持を補助し、食べこぼしを防ぐ。
- ・移動しやすい軽さと優れた安定性で、介護現場の負担を軽減。



体圧分析センサー



指センサー



体圧分析データ

- ▲介護現場で一定期間使用いただき、利用者、支援者から定性的な評価を受ける一方、指センサーや体圧分布センサーにより、使用時にかかる力や重量を検証し、定量的な評価を実施。

成果指標①の成果分析

概要 背景 取組 成果 まとめ

福祉製品等開発・改良プロジェクト累計件数

- ウェルテックを核とした支援体制のもと、福祉製品等の開発・改良プロジェクトに繋がるイベント等を実施した結果、プロジェクト参画打診件数・相談件数が順調に推移している。
- 総合リハビリテーション推進センターとウェルテックの連携事業（勉強会）等による介護福祉現場の専門職への接続のし易さや、東京科学大等との連携体制など、開発を行う企業に対する支援拠点としての認知の向上が、新規参入に向けた企業の意識醸成やウェルテックへの相談に繋がっていると考えられる。

活動指標	R4	R5	R6	R7
プロジェクト参画打診件数	86件	109件	85件	85件
相談件数	18件	18件	21件	29件

《総合リハビリテーション推進センター × ウェルテック 連携ミーティング》

介護現場におけるICT・AI活用勉強会

～負担軽減から自立支援まで テクノロジーがひらく介護と暮らしの未来～

介護現場が抱える深刻な人材不足や介護者の負担増、在宅における自立支援や介護予防といった社会課題に対し、「課題と技術が出会う共創の場」として、現場と技術の知見を結び付け、課題解決のヒントや新たな連携の可能性を探るとともに、川崎市総合リハビリテーション推進センターと連携し、多様な視点からの製品開発、活用につながることを目的とした勉強会を開催します。

こんな方におすすめ

- ▶ ICT・AIの活用を検討している施設職員やケアマネジャー、管理者等の方
- ▶ 介護現場を支えるICT・AI等のテクノロジーを開発・製造している企業の方
- ▶ 関連業種とのつながりの中で意見・情報交換をしたい方

日時 令和7年8月28日（木） 14:00～17:00（受付開始 13:30～）

会場 Kawasaki NEDO Innovation Center（通称K-NIC）
川崎市幸区大宮町131番 ミューザ川崎セントラルタワー5階

費用 無料

川崎市
総合リハビリテーション推進センター
連携 勉強会
川崎ウェルテック

現場の声でひらく、福祉製品の可能性

福祉製品の活用を促すことを目的に、現場のニーズに即した新たな活用法やサービス展開の可能性について考える勉強会を開催します。

12月25日 令和7年（木）
13:30～17:15
受付開始 13:00～

勉強会内容

- ・定員：30名／参加費：無料
- ・対象者：福祉製品開発企業の方、介護・福祉専門職の方、福祉製品の活用に関心のある方

グループワークを行います。
販売中の3製品ごとのグループに分かれ、開発企業と介護職、福祉専門職、その他企業の方等、それぞれのお立場から、製品の新たな活用法や期待されるサービス等の意見交換を行います。※製品・プログラムの詳細は要覧へ

参加したいグループのご希望をご登録ください。主催者で事前にグループ分けします。

●基調講演（東京科学大学 西田佳史教授）
●製品紹介＆グループワーク
●交流会（ご希望により抽選の一部見学可能です）



▲ 基調講演などの勉強会の様子
ふくふく地域交流スペースにて開催



▲ テーマに分かれて行ったグループワークの様子
製品・サービスのニーズを把握したい企業の説明後、実際に製品を使用し意見交換を行った。

▲ 直近の勉強会開催例（令和7年度は8月と12月に開催）

成果指標②の達成状況(目標達成)

概要 背景 取組 成果 まとめ

福祉製品・サービスの市場化累計件数

- 令和5年度、令和6年度は目標を下回ったものの、令和7年度はこれまでに支援した事業により創出された製品について4件が上市し、目標数を達成。

	R4	R5	R6	R7
目標	2件	4件	6件	8件
実績	2件	3件	4件	8件

【支援事例】製品コンセプトから、福祉現場での実証を支援し、製品開発の後、市場化した例
「車椅子利用者用晴雨兼用ウェア」(株式会社ケアウィル)



●開発背景

- 「共創から生まれる車いす利用者用レインウェア製品化プロジェクト」として車いすユーザーの声から開発。
- 車いすに乗った状態で、ひとりで簡単に着脱が可能で移動時も滑り落ちず、風でめくれない、収納しやすく装いを楽しめるレインウェアとして開発を進めた。



レインウェアのニーズをヒアリングする様子

- ▲「共創」による当事者に寄り添った製品づくりのため、ウェルテックが南中北部リハビリテーションセンターや田園調布学園大学社会福祉学科を繋ぎ、当事者、支援者、専門家等に対するヒアリングを実施。その内容を基に数回の試作を経てデザイン要件を設計。

成果指標②の成果分析

概要 背景 取組 成果 まとめ

福祉製品・サービスの市場化累計件数

- 令和7年度の福祉製品・サービスの市場化累計件数の実績値は累計8件となった。製品の企画段階から当事者（ユーザー側）と連携した開発に取り組むことにより市場化に繋がる製品開発が実現するなど、共創及び複合的な支援による支援の効果が出ていると考える。

【市制100周年事業で実施した共創事例】 「情報保障アプリ」(ダンウェイ株式会社)



事業の中間報告会の様子



アプリの機能となる
データを収集



アプリの体験会を実施

●開発背景

- 「誰もが働くことにチャレンジできる社会へ」をテーマに、障害者の就労に必要な能力の基盤になる、個人ごとの情報の発信・受取の得意・不得意をステータス化し見える化する「情報保障アプリ」の開発を進めた。

- ▲障害児者の支援にあたる専門職に、製品ニーズや機能についてヒアリングを実施。また、障害者を雇用している企業の担当者や就労支援事業所の職員などを対象に実際に試作中の製品を体験してもらい、現場からの要望などのヒアリング結果を踏まえ、製品への機能追加等を行った。

(2) ソーシャルビジネス振興事業

概要 背景 取組 成果 まとめ

- ソーシャルビジネスは、地域や社会全体の課題に対し、ビジネスの手法を用いて解決を図るものであり、社会課題の解決を事業の柱とする「社会性」と、自社製品やサービスの提供により収益を得て事業を継続する「事業性」を両立し、持続的運営を目指すものである。
- 少子高齢化対策や子育て・障害者支援等に関する課題、教育に関する課題、気候変動や資源エネルギーに関する課題など、社会問題は多岐に亘るため、行政とともに課題解決を担う存在として、注目されている。
- 本市においては、平成19年度より、コミュニティビジネス振興に関する取組(啓発イベントやセミナー等)を開始しており、令和2年度より、起業家支援拠点「K-NIC」において「ソーシャルビジネス起業スクール(全6回)」及び個別起業相談、各種イベント等を実施している。

【ソーシャルビジネス振興の取組事例】

○ソーシャルビジネス起業スクール



▲講座の様子(左)と、事業計画発表会の様子(右)

- 令和7年度は、9月1日から10月18日にかけて全6回で実施。
- 令和7年度の申込者数は30名(定員)、修了者数は24名であり、例年、申込者数は定員に達している。
- 本スクールでは、ソーシャルビジネスの起業に必要な基礎知識をはじめとし、事業成長・経営安定化に向けた事業計画の策定や資金調達の手法等を学ぶことができる。
- 最終日は、各自の事業計画を発表し、講師等から講評を得る。
- 受講者(起業家)間や講師等の支援機関、先輩起業家等との仲間づくりにも貢献している。

(3) クリエイティブ産業活用促進事業

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 本事業は、様々な産業においてクリエイターやデザイナーの活用を促すことにより、市内事業者の情報発信力の強化や経営の改善、既存製品の改良、新製品開発等へとつなげ、市内産業の活性化を図るもの。
- 本市では、平成28年度より本事業を開始し、現在、起業家支援拠点「K-NIC」において、専門家による個別相談に加え、プロダクトデザイン、新事業創造、情報発信等に関する講座・セミナー、マッチングイベント等を実施している。
- 近年、マーケティングにおけるプロダクトデザインの重要性や、事業創造手法としてのデザイン思考の活用などが注目されており、セミナー等の参加者が増加している。

【デザイン関連セミナー等の事例】

○市内事業者×クリエイターミートアップイベント (令和7年8月29日開催)

- ・市内事業者とクリエイター等のマッチングが目的。
- ・市内事業者と参加クリエイターの双方が自身の事業内容等を紹介するピッチと製品・作品等の展示を行うミートアップイベントを開催。
- ・市内事業者のニーズに対し、クリエイターがどのような技術やサービスを提供できるのかなど、多くの意見交換が行われた。



▲市内事業者×クリエイターミートアップイベントの様子

●デザイン関連セミナー等の参加者数実績

	R4	R5	R6	R7
目標(人)	40	40	40	40
実績(人)	61	42	69	75

令和7年度の実施内容(4回実施・計75名参加)

開催日	テーマ	参加者数(人)
5/17	レゴを使って企業のアイデアを「具体化」しよう	8
5/26	プロダクトデザイン×マーケティング戦略	22
8/29	プロダクトデザインとその背景	24
10/7	デザイン発注前に知っておきたい契約・知的財産	21

成果指標③の達成状況(目標達成)

概要 背景 取組 成果 まとめ

コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの年間起業件数

- 令和4年度は、目標値(6件)を1件下回ったものの、令和5年度以降は目標値と同数の起業件数を達成した。

	第1期策定時 (H26)	R4	R5	R6	R7
目標		6件	6件	7件	7件
実績	4件	5件	6件	7件	7件

直近のソーシャルビジネスにおける起業事例

○株式会社LIFE GRIT(令和7年11月、幸区にて創業)

- 同社代表取締役は、総合病院救急部門での勤務経験及び、在宅医療を行う訪問看護ステーションの管理者経験を通じて、看護師不足に起因する、患者搬送時や福祉施設等での看護ケア不足という社会的課題を感じていた。
- この課題の解決に寄与するため、令和7年度にK-NICソーシャルビジネス起業スクールを受講し、事業計画を策定した後、同年11月に幸区にて、看護師による患者搬送事業及び看護師派遣事業を行う『株式会社LIFE GRIT』を創業。
- 令和8年1月には、ソーシャルビジネス起業の先輩として本市ミートアップイベントに登壇するなど、活躍の場を広げている。



成果指標③の成果分析

概要 背景 取組 成果 まとめ

コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの年間起業件数

- コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの年間起業件数については、起業家支援拠点「K-NIC」において、ソーシャルビジネスの起業に必要な知識を学ぶ「ソーシャルビジネス起業スクール(全6回)」の実施に加え、起業・経営に関する個別相談及び啓発セミナー等の実施、先輩起業家や起業仲間との交流促進を図る場の提供などを行ったことにより、目標を達成できたものと考えている。

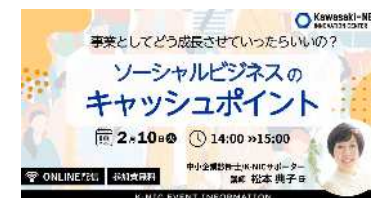
● 起業・創業セミナーの参加者数（年間）

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標(人)	46	46	46	46
実績(人)	64	43	56	47

ソーシャルビジネス関連セミナー

○ソーシャルビジネスのキャッシュポイント ～事業としてどう成長させていったらいいの？～

- ・ ソーシャルビジネスで躓くことの多い課題（収益モデルの構築、資金調達の手法等）への対応をメインに、専門家による講義を実施。



▲ 講座のバナー

先駆的起業家や起業仲間との交流促進を図る場の提供事例

○起業家・支援機関交流会（令和8年1月27日開催）

- ・ 先輩起業家による講演と、参加者による自己紹介ピッチを行った後、市内の支援機関を交えた気軽な名刺交換会を実施。
- ・ 起業や経営の実例・苦労を分かち合う場として、また、多数の支援機関から支援メニューの情報を得られる場とすることを目的として開催。
- ・ 起業家の仲間づくりに貢献することができた。



▲ 基調講演の様子



▲ 名刺交換会の様子

その他成果(数値で把握できる補足指標)

概要 背景 取組 成果 まとめ

かわさき基準認証製品数

- 「自立支援」を中心とした8つの理念に基づく「かわさき基準」により、高齢者や障害者の方々の豊かな暮らしや自立につながる優れた福祉製品を認証する制度。市内の福祉施設等で実際に製品を使用して評価を行うモニター評価等の審査を経て認証を実施している。

年度	R4	R5	R6	R7
実績	10	10	6	7

【主な認証製品】

介護用洗身用具 switle-BODY
(株式会社アリスの介護)



いつも寝ているベッドに要介護者を寝かせたまま、
周囲を濡らさず、汚さず、洗身することができる用具

移動式リフトシリーズ
(株式会社BANDS)



リフト介助の難しさを
大きく軽減した移動式リフト

アームスリングシャツ
(株式会社ケアウィル)



アームスリング(三角巾)と
一体化した服

その他成果(定性的な成果)

概要 / 背景 / 取組 / **成果** / まとめ

ウェルフェアイノベーション推進事業

- ウェルテックを拠点とした、開発から販路開拓までの一貫した支援や、福祉関係者との継続的な勉強会の開催などにより、企業の福祉分野への参入を促進している。
- ウェルテックの開設以降、市外企業も含む相談件数が増加しており、東京科学大、産業技術総合研究所、総合リハビリテーション推進センターとの連携体制等を有する施設として認知が進んでいる。
- 福祉製品開発補助やかわさき基準認証制度などに加え、令和5～6年度にかけて市制100周年関連事業として公募型委託福祉製品開発事業を行い、2件の製品化を支援した。このように新たな事業を構想する事業者に対し、企画段階から当事者(ユーザー側)のニーズを反映する仕組みを提供することで、上市につながる製品開発が実現可能となっている。

コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの振興

- 「ソーシャルビジネス振興事業」及び「クリエイティブ産業活用促進事業」については、個別相談やソーシャルビジネス起業スクールなどK-NICにおける支援を中心としつつ、かわさき起業家塾、専門家派遣等の支援を実施する川崎市産業振興財団や、川崎市創業支援等事業計画に加入する民間事業者(商工会議所、金融機関、シェアオフィス事業者等)と連携することで、起業における幅広い課題への対応や、起業後の成長支援に寄与している。

施策の達成状況

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

施策の達成状況

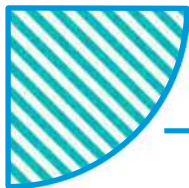
A 順調に推移した(目標達成した)

理 由

- ① 施策に掲げた成果指標について全て目標を達成するなど、施策の目標達成に向けて順調に推移しました。
- ② 「ウェルフェアイノベーション推進事業」については、ウェルフェアイノベーションフォーラムの開催のほか、ユーザー側のニーズや課題を反映した福祉製品開発について、企画から製品化後の普及まで視野に入れた一気通貫での企業支援を、ウェルテックを核として実施したことなどにより、ほぼ目標どおりに達成しました。
- ③ 「ソーシャルビジネス振興事業」及び「クリエイティブ産業活用促進事業」については、K-NICにおける支援施策と一体的に実施することで、K-NICの共同運営者である川崎市産業振興財団やパートナーである地域金融機関等とスムーズな連携を図り、経営戦略・事業計画の策定や資金調達に関する支援など、起業家のニーズや成長段階に合わせたきめ細やかな支援を行うことにより、起業件数目標を達成しました。

【施策の達成状況区分】

- A 順調に推移した(目標を達成した)、B 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)
C 進捗が遅れた(1期策定時を下回るものが多くあった)、D 進捗が大幅に遅れた(1期策定時を大幅に下回った)



今後の方向性

概要 背景 取組 成果 まとめ

- ① より地域包括ケアに資する取組として、高齢者・障害者・介護者等のニーズを的確に反映した優れた福祉製品・サービスの創出を行うため、「ウェルフェアイノベーション」を「ケアイノベーション」へと位置づけを新たにし、地域への展開を重視した取組へと発展させることで、ウェルテックを核とした地域の介護・福祉現場と企業との共創を更に推進するとともに、かわさき基準の認証に向けた支援など、企画段階から上市後の普及促進までの継続的な支援を引き続き実施していきます。
- ② 「ソーシャルビジネス振興事業」及び「クリエイティブ産業活用促進事業」については、引き続き、K-NICを通じて他施策と連携した総合的な支援を行うことにより、効率的・効果的な事業実施に取り組んでいきます。また、K-NICのパートナーである専門家等と連携し、起業家のニーズや事業の段階に応じた支援を実施していきます。



(関連情報) 新川崎・創造のもりの概要

概要 背景 取組 成果 まとめ

「新川崎・創造のもり」は、ベンチャー企業の育成、基盤技術の高度化などによる本市産業の活性化を目的に、旧国鉄の新鶴見操車場跡地を再開発した産業集積拠点である。令和7年3月には、量子・AI・半導体分野の拠点形成を目指す「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」を策定。今後、拠点整備事業を進めていく。

新川崎・創造のもり

- ・平成12(2000)年から段階整備
- ・「慶應義塾大学K2タウンキャンパス」と「かわさき新産業創造センター」が立地
- ・かわさき新産業創造センター(KBIC本館、NANOBIIC、AIRBIC2階)は、首都圏最大級の計100室、8,100㎡のインキュベーションラボを備え、入居率約100%(スタートアップ等 約50者が入居)
- ・クラス100・10000のクリーンルーム



量子イノベーションパーク実現に向けた取組

- ・令和3年、新川崎・創造のもりにおいて、アジア初のゲート型商用量子コンピューターが稼働
- ・これを契機として、創造のもりを中核とする市内全域での量子分野におけるイノベーションの創出を図る「量子イノベーションパーク」の取組を推進
- ・量子技術を活用し、地域・行政課題の解決を目指す「量子実証 川崎モデル創出事業」や、「量子サマーキャンプ」を始めとした量子分野の次世代人材育成プログラムなど全国に先駆けて本市が実施

量子コンピューター



出典：日本IBM
量子サマーキャンプの様子



新川崎・創造のもりの機能更新

K2タウンキャンパスの敷地を対象に、量子・AI・半導体分野の最先端の「知」と「人材」が集積する拠点形成を目指した、新川崎・創造のもりイノベーション拠点整備事業を推進

■規模

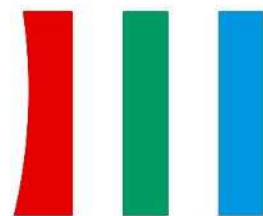
敷地面積 約16,400㎡
延床面積 約50,000㎡

■事業スケジュール

設計：令和8～9年度
工事：令和9～11年度
開業予定：令和11年度



イメージパース



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市